

高松市立美術館運営方針

平成28年4月

令和3年4月 改定

高 松 市

目 次

1	策定の趣旨	1
2	運営方針	2
3	運営方針実現に向けた取組の方向性等	3
4	取組項目	
(1)	市民を始め、国内外の人々に親しまれ創造性あふれる美術館づくり	
ア	美術館の日	3
イ	高松市美術館	
(ア)	展覧会の充実	4
(イ)	展覧会関連事業の充実	5
(ウ)	I C Tの活用	5
(エ)	教育普及事業	6
(オ)	学校との連携	7
(カ)	美術品の収集・保管	7
(キ)	施設内空間の有効活用	7
(ク)	安心・安全の確保	8
(ケ)	開館時間等の弾力化	9
(コ)	地域等との連携	9
(サ)	市民ボランティアの参画の促進	10
(シ)	こどもアートスペース等の活用	10
ウ	高松市塩江美術館	
(ア)	展覧会の充実	11
(イ)	展覧会関連事業の充実	11
(ウ)	I C Tの活用	12
(エ)	教育普及事業	12
(オ)	学校との連携	13
(カ)	美術品の収集・保管	13
(キ)	地域等との連携と施設の活用	13
(ク)	安心・安全の確保	14
(2)	美術館の効率的な運営	
ア	観覧料及び減免制度	14
イ	効果的な広報	15
ウ	自己評価システム	16
エ	友の会	16
◆資料		18

1 策定の趣旨

(1) 経緯

高松市美術館の前身である高松美術館は、文化拠点となる美術館を建設することで戦禍から復興しようとする市民等の手によって、昭和24（1949）年に栗林公園内において造られた、戦後初めての公立美術館です。しかしながら、施設の老朽化により再び美術館建設が計画されると、市街地中心部に位置する都市型美術館として現在の地に、美術に関する市民の知識及び教養の向上と市民文化の発展に寄与するため、昭和63（1988）年8月に高松市美術館として開館しました。

高松市民のみならず、県内における優れた美術鑑賞の場として、また、美術作品の収集や美術に関する情報の提供を行うとともに、市民の様々な文化芸術活動の場として幅広く利用され、文化芸術の振興に大きな役割を担ってきました。

一方、旧塩江町に平成6（1994）年4月に開館した高松市塩江美術館は、同町出身の画家・熊野俊一を始め、地元ゆかりの作家を中心とした作品の収集及び展覧会を開催するとともに、四季折々の自然を生かし、地域に根ざした文化芸術活動の拠点となってきました。

このような中、余暇利用の多様化、県内を始めとする近隣地域での新しい美術館のオープンなど様々な要因により、両館とも開館当初に比べ、来館者が減少傾向にあることへの対策や施設・設備の経年劣化への対応等が求められてきたことから、平成19年10月に「美術館のあり方検討委員会」が設置されました。その後、同委員会において、美術館の今後の運営とあるべき姿について検討がなされ、平成20年2月に「市民に親しまれ魅力ある美術館づくり」と「美術館の効率的な運営」を柱とした美術館のあり方に関する提言書が取りまとめられました。本市では、この提言を踏まえ、平成21年3月に「高松市立美術館（※1）の今後の運営方針」を策定し、これに基づき、美術館運営を行ってまいりました。

その後、本市の厳しい行財政状況や、少子高齢化の進行等により美術館運営を取り巻く環境が大きく変化していくなかで、本市美術館において、平成27年1月から約1年をかけて「文化芸術の発信拠点としての機能強化」を基本方針とした改修工事が行われたことを踏まえ、平成28年4月に「高松市立美術館運営方針」を定めたところです。

さらに、今後においても、美術館を取り巻く環境の変化や美術館に対するニーズの多様化等に適切に対応し、美術館の設置目的を達成するため、令和3年4月に「高松市立美術館運営方針」の改定を行うものです。

※1 高松市美術館及び高松市塩江美術館の総称として「高松市立美術館」と呼んでいます。

(2) これまでの5年間〔現状〕

高松市美術館は、改修工事後、リニューアル効果とともに、人気がある美術家の個展「ヤノベケンジ展」や若い世代を中心に圧倒的な支持を得ている写真家の「蜷川実花展」を開催したこともあり、平成28年度は約147,000人、29年度は約157,000人の利用があり、改修工事前の約110,000人から利用者数が大きく増加しましたが、開館3

0周年を迎えた30年度は、人気が高い日本画展や著名な美術家による現代アート展を開催したものの利用者数には結びつかず、リニューアル効果も薄れたことから、利用者数は約111,000人と改修工事前と同じ水準に落ち込みました。

そこで、令和元年度は、瀬戸内国際芸術祭2019への参加展覧会開催や連携事業の実施に加え、美術館独自のSNS開始、絵本展に合わせた児童が描いた絵画の展示など様々な取組により、利用者数が約136,000人まで回復したものの、年度末からの新型コロナウイルスの影響により、2年度は特別展開催期間中に臨時休館に至るなど、厳しい美術館運営を迫られました。

塩江美術館は、年間1万数千人の利用者数で推移していたところ、30年度の改修工事後の令和元年度は、地元及び産官学が連携した「塩江温泉鉄道」展の開催もあり、約19,000人の利用者数でしたが、こちらも新型コロナウイルスの影響により、2年度は厳しい美術館運営を迫られています。

(3) これからの5年間〔課題〕

世界中の美術館が新型コロナウイルスの影響により休館を余儀なくされた歴史的な状況において、我々は、文化芸術がもつ力、心を癒し、豊かにし、生きる喜びや誇りに繋がることを改めて知ることができました。

このように文化芸術の価値や美術館の役割は変わることはありませんが、今後の一定期間は社会全体に新型コロナウイルスの影響が及ぶことから、新しい生活様式に対応した取組が美術館にも求められています。

そこで、高松市立美術館は、今後、感染症の影響を受けにくい利用方法の確立や3密回避を含めた新しい生活様式への対応を行うため、ICTを活用するなど利用者のさらなるサービス向上に努め、利用者数の増加を図ることにより、市民に必要とされ、国内外の人々に親しまれる美術館として、本市の文化芸術の振興を進めてまいります。

2 運営方針

(1) 上位計画との整合性

第6次高松市総合計画や第2期高松市文化芸術振興計画との整合性を図ります。

(2) 方針

高松市立美術館は、「創造都市高松の文化芸術の拠点として、市民に必要とされ、かつ、市民を始め、国内外の人々に親しまれ創造性あふれる美術館」を目指します。そのため、「高松市の美術館としての独自性や創造性を生かしつつ効率的な運営」をします。

(3) 具体的な方針

高松市美術館では、展覧会の充実や系統的な美術品の収集に努めるとともに、教育普及事業の推進については、未来を担う子どもの創造性を育む等、一層の充実を図ります。

また、中心商店街に近接した都市型美術館という立地条件を生かし、地域との連携の強

化により、にぎわいや交流の創出など、まちづくりと一体となった取組を推進し、「人・街・未来につながるミュージアム」として都市機能の向上に寄与する美術館を目指します。

高松市塩江美術館では、山あいの豊かな自然に恵まれた環境に立地する美術館という地域特性を生かした、文化芸術を楽しむ空間づくりを目指し、展覧会の充実や系統的な美術品の収集、教育普及事業の充実、地域に根ざした取組を進めます。

3 運営方針実現に向けた取組の方向性等

(1) 方向性

- ア 誰もが来館しやすく、魅力ある美術館とするため、展示内容の充実、関連事業の充実、施設の適切な維持管理、サービスの向上に取り組みます。
- イ ICTの活用により、来館が困難な方も含め、あらゆる人たちに美術館の魅力を知っていただくよう取り組みます。
- ウ ボランティアなどの市民参画を促進するほか、学校や地域との連携強化を図ります。
- エ 子どもの感性を育み人々を豊かな創造性へといざなうよう、教育普及事業の充実を図ります。
- オ 施設全体の空間の有効活用を図ります。
- カ 観光や産業部門と連携した、効果的な情報発信に取り組みます。
- キ 美術館の事業内容、入館者数、費用対効果等について、その成果の検証と自己評価を行い、事業運営に反映させます。

(2) 期間

令和3年度から7年度

(3) 数値目標 (年間利用者数)

美術館名	平成26～30年度 実績平均値	令和元年度 実績	令和5年度 目標
高松市美術館	131,868人 (27年度を含まない)	136,097人	155,000人
高松市塩江美術館	13,316人 (30年度を含まない)	19,212人	19,000人
合計	145,184人	155,309人	174,000人

※ 令和5年度の目標値は「第6次高松市総合計画」掲載の目標値です。

7年度の目標値は次期総合計画策定時に検討します。

※ 平成26～30年度実績平均値には、大規模改修に伴う休館年度を含みません。

4 取組項目

(1) 市民を始め、国内外の人々に親しまれ創造性あふれる美術館づくり

ア 美術館の日

市民がより美術に親しみ、豊かな心を育めるよう、平成21年度に、8月の第一土曜日を「美術館の日」と定め、当日の展覧会の観覧料を免除するとともに、ワークショップ等のイベントを開催しています。毎年多くの方に来館いただいておりますが、美術館に親しんでいただくことができていますが、年間を通じての来館につながるようにしていく必要があります。

美術館の日を契機として、年間を通じて市民を始め、多くの人々が集い、楽しみ、にぎわう美術館となるよう、当日の観覧料の免除や来館者が気軽に楽しめるイベント等を、引き続き実施します。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
美術館の日	・観覧料の免除 ・来館者が気軽に楽しめるイベント等の実施	継 続

イ 高松市美術館

(ア) 展覧会の充実

展覧会は、美術館の最も重要な事業で、美術館の特長や方向性を端的に表すものであり、また、利用者数や利用者からの声は、美術館に対する評価・満足度の大きな判断要素となるものです。

平成28年度から令和元年度では、1万人を超える観覧者数のあった特別展が5展（西洋版画1展、絵本1展、現代美術2展、写真1展）を数えました。

また、28年度のヤノベケンジ展が映画の舞台になるとともに、令和元年度の宮永愛子展を契機として同氏が第70回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞されたほか、平成30年度には美術館が総務省の外郭団体である（一財）地域創造の「地域創造大賞」を受賞するなど、観覧者や関係団体等から高い評価を得たほか、22年度からは瀬戸内国際芸術祭と連携等した現代美術の展覧会も開催するなど、利用者が満足する充実した展覧会の開催に努めました。

美術館に対する評価・満足度を向上させ、利用者数の増加を図るためには、更なる展覧会の充実が必要です。

美術館活動の根幹が企画力であることを認識する中で、市民ニーズを的確に捉え、市民を始め、より多くの人々が楽しめるポピュラーで集客性の見込める巡回展とともに、美術的に優れ、独自性や必然性が高く、市民等に新しい美術手法や表現方法を紹介できる自主企画展や常設展を開催し、展覧会の充実を図ります。

また、瀬戸内国際芸術祭の開催に合わせ、本市独自の展示や関連イベント等のほか、引き続き、多くの市民が国内外の優れた作品に接し、感動できるような企画に取り組みます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
巡回展	絵画、工芸、彫刻、写真・映像、デザイン、サブカルチャーなど、美術の幅広い分野から集客性や地域性、先進性等のバランスに配慮した展覧会の企画・招致	継 続
現代アートの展覧会	瀬戸内国際芸術祭の開催等による近年の現代アートに対する市民の関心の高まりに応えとともに、新しい世代のアーティストを含めた現代作家を紹介するため、現代アートの展覧会の定期的な開催や、瀬戸内国際芸術祭と連携等した展示等	継 続 瀬戸内国際 芸術祭との 連携等
コレクションを活用した展覧会	所蔵美術品の効果的な活用のため、展覧会ごとにテーマを設け、当館のコレクションと関連アーティストの作品を組み合わせで紹介する展覧会の開催	継 続

(イ) 展覧会関連事業の充実

美術館では、展覧会ごとに記念講演会やワークショップ等の関連イベントを実施し、美術鑑賞だけではない魅力ある展覧会の開催に努めています。

年間を通じて多くの市民の方に展覧会へ足を運んでいただくためには、引き続き、展覧会への理解を深めるとともに、楽しみながら美術に触れていただけるイベント等の関連事業の充実が必要です。

各展覧会に関連した講演会や展示解説、また、子どもから大人まで幅広く参加できる講座やコンサート等の催し物の開催など、展覧会をより楽しめるきめ細かな事業の実施に努めます。

また、事業実施に当たっては、中2階の「こどもアートスペース（こども+）」やロビーの展示スペースを活用し、参加者が満足できる様々な企画を実施するとともに、多くの方の参加が得られるよう、効果的なPRに努めます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
展覧会関連事業	・記念講演会 ・子どものアトリエ ・アートで遊ぼう ・短期実技講座（ワークショップ） ・エントランス・ミニコンサート ・ギャラリー・トーク 等	継 続 こどもア ートス ペース 等の活用

(ウ) ICTの活用 ※2

「新たな美術体験事業」として、美術館ホームページにおいて作品解説等の動画

を配信し、来館が困難な方も含め誰もが、スマートフォンやパソコン等を通して、美術品の魅力を知る新たな鑑賞手法を提供します。

これにより、災害や感染症による緊急事態宣言下でも美術鑑賞が可能になるだけでなく、展覧会や所蔵美術品を知るきっかけとなり来館の動機づけになるほか、動画再生回数を閲覧者数として利用者数にカウントし、利用者数の増加にも繋がります。

※2 ICTとは「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略で、ネットワーク通信を利用した情報や知識の共有を指すもの。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
新たな美術体験事業 (動画配信)	ホームページにおける作品解説や美術館事業等の動画配信 等 〔令和7年度 数値目標〕 動画配信数 150本 再生回数 15,000回 ※塩江美術館を含む	新規

(エ) 教育普及事業

美術館は、国内外の優れた美術作品の鑑賞を通して、幅広い美術の表現領域・表現方法に触れ、豊かな感性を涵養するための社会教育施設であることから、教育普及事業は展覧会事業などと並んで公立美術館の主要な事業の一つに位置付けられています。

特に、子どもたちにとっては、初めて美術と関わる動機付けとしての一面も大きく、美術を楽しみながら豊かな感性を養うことができるよう取り組む必要があります。また、美術館は市民の活動を支援するという役割を十分に認識し、幅広い年齢層に向けた多彩な教育普及事業を行うなど、市民に必要とされる事業を展開することも必要です。

今後、幅広い年齢層の方に美術に親しんでいただくため、小学生を主な対象者としたこれまでの教育普及事業を一層充実するとともに、未就学児と保護者、中学生から大人までを対象とした講座等の企画・開催に積極的に取り組むなど、教育普及事業の拡充を図ります。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
教育普及事業	・子どものアトリエ(再掲) ・アートで遊ぼう(再掲) ・短期実技講座(ワークショップ)(再掲) ・市政出前ふれあいトーク 等	継続

(オ) 学校との連携

学校では、子どもたちが初めて美術と関わる動機付け等として、サンクリスタル学習の機会などに、美術館を活用する取組が行われています。美術館としても、子どもたちが豊かな感性を育むことができ、また、将来の美術館の来館者となってもらえるよう、これらの取組を支援等する必要があります。

美術館を活用した美術鑑賞授業や学芸員による出前講座等の実施・拡大を学校に強く働きかけるなど、学校との連携を図り、児童生徒の来館機会の拡大に努めます。

また、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンに基づき、本市以外の圏域内の小・中学生にも美術鑑賞等の機会を提供します。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
学校との連携強化	美術館学習 出前講座等 (瀬戸・高松広域連携中枢都市圏も含む)	拡 充

(カ) 美術品の収集・保管

財政状況が厳しいことなどから、近年の収集点数は少ない傾向が続いていますが、質の高い作品収集に努めています。なお、本市の収蔵品は、東京国立近代美術館、ニューヨーク近代美術館、フランス国立近代美術館（ポンピドゥー・センター）、ローマ国立近代美術館など、国内外の美術館における展覧会への借用依頼や、教科書を始め各種出版物への掲載依頼が多数あるなど、高い評価を得ています。

美術品の収集は、美術館の性格を特色付ける重要な要素であることから、引き続き、取得方針を踏まえ、系統だった美術品の収集と保管に努めるとともに、常設展や特別展において展示し、広く市民の方の鑑賞に供していきます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
美術品の収集・保管	取得方針 ・戦後日本の現代美術（洋画・彫刻） ・20世紀以降の世界の美術（版画） ・香川の美術（工芸）	継 続

(キ) 施設内空間の有効活用

これまで、エントランスホールでは、コンサート等の各種イベントを開催し、美術鑑賞だけでなく、美術館に親しむ動機付けとなるような取組を実施してきていま

す。また、情報提供スペースは、全国の展覧会情報を求めて来館する方に多く利用されてきました。

今後は、「市民に親しまれ魅力ある美術館づくり」を進める上からも、エントランスホールの活用に加え、中2階の「こどもアートスペース」や1階の「情報提供コーナー」、市民ギャラリーとしての利用が可能となった講堂・ホワイエ等の効果的な活用とともに、貸館スペースの利用率の向上に努める必要があります。

エントランスホールをはじめとする美術館内の各スペースについては、芸術や創作の場又は情報発信の場として有効活用します。

貸館スペースの利用率向上を図るため、展覧会情報等に加え、空き室情報の提供など、積極的なPRに努めます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
講堂の多目的利用	講堂、ホワイエを市民ギャラリーとしても使用するなど、多目的な利用	継 続
中2階ロビーの活用	美術館特別展の作品や美術館収蔵の彫刻作品、各講座等で制作した作品等を展示するほか、ワークショップ会場等としても利用	継 続
貸館情報の充実	市民ギャラリーの展示や空き室状況を美術館のホームページに掲載	継 続
展覧会等の情報提供スペースの設置	国内美術館・博物館の展覧会チラシやポスターを掲示するスペースを設け、来館者へより多くの情報を提供する場として活用	継 続
エントランスホールの活用	展覧会の関連行事のほか、美術館友の会や「街クラシック in 高松」、関係団体などと連携・協働して開催するコンサート等の会場として活用	拡 充

(ク) 安心・安全の確保

平成27年1月から約1年間をかけて、大規模な改修工事を行いました。この改修工事の対象となっていない設備等もあります。

収蔵品を適切に保管し、快適な鑑賞環境を維持するため、施設の適切な維持管理に努め、安心・安全が確保された施設としていく必要があります。

引き続き、施設、設備等の劣化状況を把握する中で、適切な維持管理に努めます。

また、南海トラフ地震等の災害や新型コロナウイルスをはじめとした感染症にも配慮し、利用者や職員の安全を確保できるよう努めます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
施設の適切な維持管理	消防設備、給排水設備等の計画的な更新 災害や感染症に配慮した安全の確保	拡 充

(ケ) 開館時間等の弾力化

効率的な施設運営に留意する中で、利用状況等を踏まえ、令和2年度から高松市美術館の開館時間の見直しを行いました。

今後とも、観覧者数の動向や市民ニーズ等を見極めながら、開館時間等の弾力的な対応に努めます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
開館時間等の弾力化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別展開催期間中の金・土曜日は19時まで開館 ・ 瀬戸内国際芸術祭開催期間中の特別展等について、状況に応じて開館時間の延長 	継 続

(コ) 地域等との連携

これまで、高松市美術館サポートショップ事業など、中央商店街を中心とした地域との連携強化を進めてきました。また、「街クラシック in 高松」等の協働事業、瀬戸内国際芸術祭開催時の連携特別展やスタンプラリーなど、地域等との連携に努めてきました。

中心市街地に立地しているメリットを生かし、中央商店街や周辺地域との連携を推進するとともに、効果的な情報発信に努めます。

また、瀬戸内沿岸の美術館と連携したせとうち美術館ネットワーク※³など、他の美術館等との連携した事業に取り組みます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
商店街等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動 ・ 「街クラシック in 高松」等協働事業の開催 ・ 高松市美術館サポートショップ事業 	継 続

他の美術館等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・せとうち美術館ネットワークへの参加 ・瀬戸内国際芸術祭との連携等 ・玉藻公園、香川県立ミュージアム、栗林公園と連携した相互割引、高松市キャンパスメンバーズ制度※4 	継 続
------------	--	-----

※3 せとうち美術館ネットワークは、(一財)本州四国連絡高速道路協会等が実施しています、瀬戸内地域にある美術館等を対象にしたスタンプラリーで、令和2年度で79施設が加盟しています。

※4 高松市キャンパスメンバーズ制度は、加入している県内の大学等の学生が無料で高松市の文化施設等を観覧できるもので、代わりに大学等は学生数に応じた年会費を負担する、本市と大学との連携事業です。

(サ) 市民ボランティアの参画の促進

美術館ボランティア「c i v i」によるギャラリー・トークは、メンバーの熱心な取組により、観覧者に好評を得ているほか、教育普及事業の一環として行うワークショップ等への「c i v i」メンバーの助手的な参加は、講師や参加者からの信頼も厚く、事業を円滑に進める上で欠かすことのできないものとなっており、これらの活動が認められ、平成30年度に市政功労者に表彰されました。

市民参加の観点とともに、来館者サービスの向上を図るため、美術館ボランティアの活動を、引き続き支援していきます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
美術館ボランティアの活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・研修及び情報提供等 	継 続
美術館ボランティアの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリー・トーク ・教育普及事業活動補助 	継 続

(シ) こどもアートスペース等の活用

これまでも、子ども、子育て世代の方や高齢者など幅広い年齢層の方に来館いただいておりますが、高松市美術館を改修のコンセプトである「人・街・未来につながるミュージアム」にするためには、よりきめ細かなサービスの提供が必要です。

「こどもアートスペース」を活用し、子どもたちが気軽に参加できる美術体験プログラムや、子ども、子育て世代が親子で楽しめるプログラム等を提供し、子どもたちの感性を養い、未来の来館者につなげる取組を行います。

また、子どもから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄れる美術館を目指し、カフェやミュージアムショップ等の充実などに取り組みます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
こどもアートスペースの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ こども美術図書コーナーの活用 ・ 美術体験プログラムの提供（ふらっとアート等） ・ 夏休み特別プログラムの提供 等 	継 続
カフェ、ミュージアムショップ等の充実	カフェ、ミュージアムショップ、情報提供コーナー、美術図書コーナーの一体的・効果的な利用	継 続

ウ 高松市塩江美術館

(ア) 展覧会の充実

山あいの豊かな自然に恵まれた環境に立地する美術館という地域特性を生かした、文化芸術を楽しむ空間づくりのためには、展覧会の充実が必要です。

常設展は、塩江町出身の熊野俊一作品を中心として、川島猛などの収蔵作品の展示を行います。常設展ごとにテーマを設定した魅力ある展示に努めます。

企画展は、県内出身の若手アーティスト等に焦点を当てた、発表の場の提供と育成を図る拠点と位置付けるなど、美術館の役割と方向性を明確にした企画展示を行います。

また、企画展の中で、出展作家が学校を訪問してトークやワークショップを行う塩江アートプロジェクト事業は、美術館と若手作家と地域の学校との連携推進や児童生徒のほか、教員や保護者にも美術や芸術に興味を持っていただくことができ、集客にも効果的であることから、引き続き実施していきます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
塩江アートプロジェクト事業	地元ゆかりの若手アーティストの展覧会を開催するとともに、出展作家が地域の小・中学校を訪問してワークショップ等を開催することにより、子どもたちが美術を身近な存在と感じられる機会を創出	継 続

(イ) 展覧会関連事業の充実

年間を通じて地域の方や美術ファンの方に、展覧会へ足を運んでいただくためには、展覧会への理解を深めるとともに、楽しみながら美術に触れていただくことができる関連事業の充実も必要なことから、コンサート等を実施しています。

引き続き、展覧会をより楽しめるよう、展覧会に関連したコンサート、ダンス公演等の開催、また、子どもから大人まで幅広く参加できる講座を実施します。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
展覧会関連事業	・コンサート、ダンス公演等の開催 ・短期実技講座（ワークショップ） ・ギャラリー・トーク 等	拡 充

(ウ) ICTの活用

「新たな美術体験事業」として、美術館ホームページにおいて作品解説等の動画を配信し、来館が困難な方も含め誰もが、スマートフォンやパソコン等を通して、美術品の魅力を知る新たな鑑賞手法を提供します。

これにより、災害や感染症による緊急事態宣言下でも美術鑑賞が可能になるだけでなく、展覧会や所蔵美術品を知るきっかけとなり来館の動機づけになるほか、動画再生回数を閲覧者数として利用者数にカウントし、利用者数の増加にも繋がります。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
新たな美術体験事業 （動画配信）	ホームページにおける作品解説や美術館事業等の動画配信 等	新 規

(エ) 教育普及事業

美術館は、国内外の優れた美術作品の鑑賞を通して、幅広い美術の表現領域・表現方法に触れ、豊かな感性を涵養するための社会教育施設であることから、教育普及事業に積極的に取り組む必要があります。

県内の美術館では唯一陶芸窯を備えていることから、定着している陶芸教室等を引き続き実施します。

展覧会に関連したものを中心として、美術や芸術に対する興味を高めるようなワークショップを引き続き実施します。

自然に囲まれた美術館の特長を生かした夏休みの子ども向け短期講座を始め、親子参加型講座や大人向け講座としての陶芸教室など、多岐にわたった企画を引き続き実施します。

高松市美術館との連携によるワークショップの企画等にも取り組みます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
教育普及事業	<ul style="list-style-type: none"> ・陶芸教室（風鈴づくりなど） ・短期実技講座（ワークショップ）（再掲） ・高松市美術館との連携によるワークショップの企画等 	継 続

（オ）学校との連携

これまで、塩江小・中学校の多くの児童生徒、教員及び保護者が、毎回の展覧会を観覧しています。引き続き、子どもたちが豊かな感性を育むことができ、また、将来の美術館の来館者となってもらえるよう学校との連携を強化する必要があります。

塩江小・中学校と連携し、学校内においてワークショップ等を開催し、児童・生徒が美術と関わる動機付けを図るとともに、児童生徒の来館機会の拡大を図ります。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
学校との連携強化	塩江小・中学校でのワークショップ等	継 続

（カ）美術品の収集・保管

旧塩江町において設立された、美術品等取得基金積立金を利用するなど、引き続き、取得方針に基づいた美術品の収集と保管に努めるとともに、常設展や企画展において美術品を展示し、広く市民の方の鑑賞に供していきます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
美術品の収集・保管	取得方針 <ul style="list-style-type: none"> ・香川県にゆかりのある作家の作品 ・塩江に関する資料等 	継 続

（キ）地域等との連携と施設の活用

高松市塩江美術館のある塩江町は、自然に抱かれた山あいであり、約1300年の歴史を誇る温泉郷のある町です。地域特性を生かした、文化・芸術を楽しむ空間づくりのためには、地域の団体等と連携を図りながら、四季折々の自然の良さを楽しめる美術館として、地域に根差した文化芸術活動を充実させる必要があります。

また、貸施設についても、広く各方面に利用を呼びかけて、利用率の向上を図り、より多くの方々に施設を利用していただく必要があります。

地域に根差した文化芸術活動を充実させるため、地域の団体やかがわ・山なみ芸術祭※5実行委員会等と連携した事業の実施に努めます。

貸施設の利用率向上のため、県内各方面への貸施設利用情報の提供に努めます。

※5 かがわ・山なみ芸術祭は、瀬戸内国際芸術祭の開催を機に、NPO法人かがわ・ものづくり学校が主宰し、県内の内陸部でも賑わいを創出することを目的としたものです。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・せとうち美術館ネットワークへの参加 ・地域の団体やかがわ・山なみ芸術祭実行委員会等と連携等した事業 ・高松市キャンパスメンバーズ制度 等 	継 続
貸施設利用情報の提供	県内各方面への貸施設利用情報の提供	継 続

(ク) 安心・安全の確保

平成30年8月から約7か月間をかけて、改修工事を行いました。またこの改修工事の対象となっていない設備等もあります。

収蔵品を適切に保管し、快適な鑑賞環境を維持するため、施設の適切な維持管理に努め、安心・安全が確保された施設としていく必要があります。

また、南海トラフ地震等の災害や新型コロナウイルスをはじめとした感染症にも配慮し、利用者や職員の安全を確保できるよう努めます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
施設の適切な維持管理	老朽化している施設、設備の修繕等を計画的に行い、適切に維持管理 災害や感染症に配慮した安全の確保	拡 充

(2) 美術館の効率的な運営

美術館の運営については、依然として厳しい財政環境の下、限られた予算の中で効率的かつ効果的な事業運営を行う必要があります。このため、中期的視点に立ち、計画的に事業を実施するとともに、その成果を検証・反映させ、効率的、効果的な事業実施に努める必要があります。

ア 観覧料及び減免制度

観覧料については、大切な財源確保につながることから、観覧料の設定及び減免制度

の運用等については、適切に対応する必要があります。

観覧料の設定及び減免制度の運用等については、適宜、見直し等を含め適切に対応していきます。

高松市美術館、高松市塩江美術館の双方で利用できる共通定期観覧券の販売や他の美術館等との相互割引等のほか、美術館以外の場所（書店等）での特別展の前売券販売を引き続き実施するほか、クレジットカードや電子マネー等を利用したキャッシュレス社会に対応する観覧料等の納付を進め、利用者の利便性の向上等を図ります。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
観覧料及び減免制度の適切な運用等	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧料の設定及び減免制度の運用等への適切な対応 ・高松市美術館・高松市塩江美術館共通定期観覧券の販売 ・玉藻公園、香川県立ミュージアム、栗林公園と連携した相互割引（再掲） ・高松市キャンパスメンバーズ制度（再掲）等 	継 続
観覧券販売窓口の拡大	美術館以外の場所（書店等）での特別展前売券販売	継 続
キャッシュレス化	クレジットカードや電子マネー等を利用したキャッシュレス対応	新 規

イ 効果的な広報

より多くの市民や美術ファン、観光等で本市を訪れた方に、美術館へ足を運んでもらうためには、美術館のことや展覧会、イベント等の内容を、広く情報発信することが必要です。

これまで、美術館情報の発信については、ホームページ、広報たかまつ、ポスター掲示、サポートショップや小・中学校、各種文化・観光施設等へのポスター、チラシ等の配布、新聞・テレビなどマスメディアへの掲載依頼などにより行っていますが、年齢層や本市を訪れた目的等によって、情報収集手段が大きく異なるため、よりきめ細かな情報発信への取組が必要です。

これまでの広報を継続するとともに、平成27年度にリニューアル事業を行った美術館ホームページを活用して、掲載情報を活発に更新するほか、美術館のフェイスブック及びインスタグラム等様々な情報発信手段を活用するなど、より効果的な情報発信に努めます。

また、国際化の進展に伴う外国人観光客の増加を考慮し、外国語（英語など）での美術館案内などを、ホームページ等で情報発信します。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
ホームページ及びSNSの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載情報の活発な更新 ・美術館のフェイスブック・インスタグラム等の活用 〔令和7年度 数値目標〕 フェスブックフォロワー数 3,000人 インスタグラムフォロワー数 2,500人	拡 充
外国語による情報発信の充実	外国語（英語など）によるホームページ等での情報発信の充実	拡 充
各課や関係機関と連携した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・観光交流課の観光ホームページの活用 ・情報発信スペースの活用 	拡 充
サポートショップ等を活用した情報提供	特別展開催中におけるサポートショップや小・中学校、各種文化施設・観光施設等へのチラシ、ポスターの配布等	継 続
マスメディア等による展覧会情報の発信	特別展開催中における新聞、テレビ等のマスメディアでの掲載依頼や鉄道、電車、バス等の公共交通機関の駅や車内でのポスター掲示等	継 続

ウ 自己評価システム

市民に親しまれ魅力ある美術館となるためには、美術館の事業内容、入館者数、費用対効果等について、その成果の検証と自己評価を行い、事業運営等に反映させることが必要です。

（公財）日本博物館協会の「博物館自己点検システム」を活用した自己評価を実施します。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
自己評価	（公財）日本博物館協会の「博物館自己点検システム」を活用した自己評価	継 続

エ 友の会

「高松市美術館友の会」は、美術に関心を持つ人々の美術鑑賞や調査研究の便宜を図り、会員相互の親睦を深めるとともに、美術館の活動を援助することを目的に活動している団体です。観覧者の増加や市民が美術館をサポートしているという意識の醸成につ

ながることから、減少傾向にある会員の拡大を図る必要があります。

友の会主催事業や美術館との共催事業の実施等について、引き続き支援をしていきます。

《主な取組》

事業名	内 容	備考
共催事業	・ふれあいコンサート ・記念講演会 等	継 続

◆資料

1 美術館年間利用者数

(展覧会観覧者、各イベント等参加者、貸室利用者等すべて含む。)

年 度	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	元	2
高松市美術館	112,493	7,494	147,026	156,907	111,045	136,097	
塩江美術館	12,859	13,324	14,614	12,469	5,341	19,212	
利用者数(人)	125,352	20,818	161,640	169,376	116,386	155,309	

※改修工事のため、高松市美術館は、平成26年度に3か月間、27年度に約12か月間休館、塩江美術館は、平成30年度に約7か月間休館

2 高松市美術館特別展

年 度	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	元	2
開催展数(展)	4	3	6	5	5	5	
開催日数(日)	136	85	192	178	186	182	
観覧者数(人)	39,168	4,830	40,495	53,290	22,950	30,916	

3 高松市美術館常設展

年 度	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	元	2
開催展数(展)	4	0	5	4	4	4	
開催日数(日)	217	0	291	286	290	288	
観覧者数(人)	15,278	0	22,492	26,914	17,153	24,669	

4 高松市塩江美術館企画展

年 度	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	元	2
開催展数(展)	8	7	8	7	3	8	
開催日数(日)	257	256	255	270	94	259	
観覧者数(人)	5,529	5,858	6,283	5,827	2,128	8,681	

5 高松市塩江美術館常設展

年 度	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	元	2
開催展数(展)	3	3	3	3	2	3	
開催日数(日)	297	287	297	297	111	301	
観覧者数(人)	5,848	6,096	6,718	6,015	2,488	8,690	